

アーム ホールディングス ADR (ARM)

【セクター】 半導体設計

信買

【市場】 NASDAQ

【企業概要】

英国に本社があり、ソフトバンクグループ傘下の半導体設計会社です。ビジネスモデルはライセンスとロイヤルティー（使用料）で、半導体企業にライセンスを供与した際のライセンス収入、チップ1枚当たりのロイヤルティー収入で構成されます。2023年3月期における売上高比率はライセンス・その他収入が37%、ロイヤルティー収入は63%です。地域別売上高比率は米国が41%、中国25%、台湾13%、韓国9%、その他12%です。2023年9月にナスダックに新規上場しました。

【業績】（単位：売上高、純利益は百万ドル、EPS、1株配当、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%、純利益、EPSは調整後ベース）

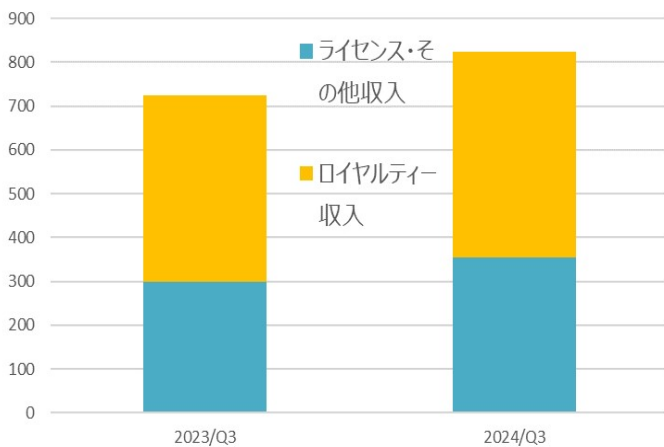
決算期	売上高	純利益	EPS	1株配当	BPS	ROE	自己資本比率
22.3期	2,703	663	-	-	-	-	54.5
23.3期	2,679	657	-	-	-	13.8	59.0
24.3期（予）	3,154	1,221	1.16	0.00	4.9	16.1	-

※EPS：1株当たり利益、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率

（出所）会社資料、BloombergのデータよりSBI証券作成

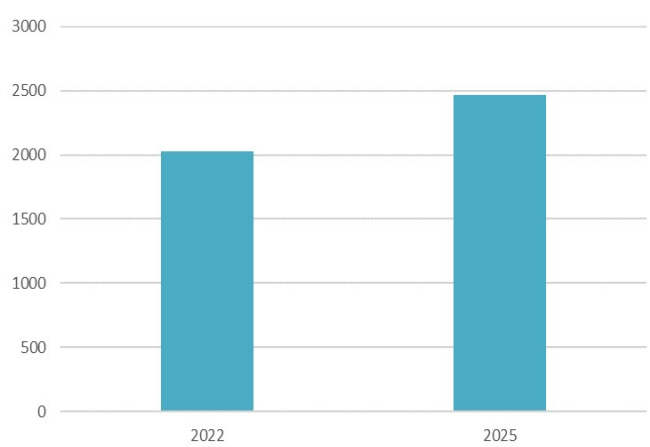
【主要指標】

売上高構成（百万ドル）



（出所）会社資料よりSBI証券作成

TAM見込み（最大の市場規模、億ドル、年）



（出所）会社資料よりSBI証券作成

【会社の見方】

これまでに出荷されたアームベースのチップ出荷数は2800億個を超えています。世界人口のおよそ7割がアームベースの製品を使用していると社は推定しています。同社は半導体業界において重要なポジションを占めており、モバイル向けの市場シェアはほぼ100%です。また、クラウド向けは約10%、自動車向けは約41%、産業IoT及び組込向けは約65%、ネットワーク機器向けは約26%です（2022年12月末）。電力効率に優れているのが強みの1つです。顧客にはアップルやアマゾン、ドットコム、アルファベット A、アドバンスト マイクロ デバイス、エヌビディア、インテル、クアルコム等が名を連ねています。なお、エヌビディアのGH200グレース・ホッパー・スーパーチップはアームベースです。

【見通し・注目点】

2023年10-12月期の売上高は前年比14%増の8.2億ドルで過去最高となり、市場予想を上回りました。EPSも市場予想を上回りました。ライセンス・その他収入は企業のAI投資拡大に伴う好調な需要から同18%増の3.5億ドル、ロイヤルティー収入は半導体市場回復とロイヤルティー料率が従来の2倍あるアームv9ベースのチップの急速な浸透を背景に同11%増の4.7億ドルでいずれも市場予想を上回りました。1-3月期の見通しは売上高、EPSいずれも市場予想を上回り、会社側は24/3期の売上高とEPSの見通しを上方修正しました。AIブームはまだ初期段階との見方を示しました。

本レポートに関するご注意事項

- ・本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。
- ・本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。本資料の内容は作成時点のものであり、信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したのですが、正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載の情報、意見等は予告なく変更される可能性があります。

手数料及びリスク情報等

- ・SBI証券で取り扱っている商品等へのご投資には、各商品毎に所定の手数料や必要経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等は価格の変動等により損失が生じるおそれがあります(信用取引、先物・オプション取引、商品先物取引、外国為替保証金取引、取引所CFD(くりっく株365)では差し入れた保証金・証拠金(元本)を上回る損失が生じるおそれがあります)。各商品等への投資に際してご負担いただく手数料等及びリスクは商品毎に異なりますので、詳細につきましては、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法等に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。